

『成城文藝』本年度刊行分総目次

(自第二〇三号
至第二〇六号)

執筆者五十音順

【論文】

青木 健

十九世紀作家の権利意識(1)

——Sketches by Boz 出版からんで——

第二〇四号、一六〇～一四五頁

ディケンズと宗教教育

第二〇五号、一三八～一一五頁

荒畑 靖 宏

経験と世界への開け

——マクダウェルの「最小限の経験主義」のための存在論的前提

第二〇五号、一一四～九二頁

脱自としての心的生

——ハイデガーとマクダウェルの「特異」な外在主義——

第二〇六号、一二六～一〇三頁

河合 大 介

自律性から関係性へ

——インスタレーション・アートにおける観客の身体性——

第二〇三号、五三～三八頁

木 畑 和 子

東ドイツに帰国した亡命ユダヤ人(5)

第二〇三号、一〇七～八九頁

工藤 力男

和名抄地名新考（六）

第二〇四号、一～一四頁

千足 伸行

シニヤックとアナーキズム（2）
《調和の時代》（上）

第二〇四号、一四四～一一八頁

小島 孝之

中世私家集の断簡三種

——『公経集』・『道玄集』・存疑『親清四女集』等について——

第二〇五号、一～一二頁

高田 宣子

天才へのまなざし（1）

——ミナ・ロイが照らし出す一九一〇年代のアヴァンギャルドたち——

第二〇三号、八八～七四頁

佐藤 憲一

Charles Brockden Brown's Ormond and the Representation of
Cataract Surgery in the Early Republic

第二〇五号、九一～七四頁

田中 佳佑

ペトラルカの文体模倣論とそのキケロー派論争への寄与

第二〇五号、七三～五五頁

鶴見良次

ABCと聖書

——17世紀後半のイギリスにおけるアルファベット綴字教育

第二〇六号、一三六～一二七頁

植崎洋子

三善晃（一九三三～）におけるオペラ構想のゆくえ

——一九六〇年代後半の器楽作品と声楽作品の関係をめぐって

第二〇三号、七三～五四頁

東谷護

韓国「米8軍舞台」形成初期にみるKPKの特異性

第二〇四号、九三～八三頁

古田尚輝

『ゴールドラック』の残影

～アニメーションの大量輸出に関する一考察～

第二〇四号、一一七～九四頁

富山典彦

生き残りし者の声

——ソーマ・モルゲンシュテルンと他者の風景——

第二〇六号、一～一六頁

南保輔

教育効果特定の手がかりを求めて…

薬物依存離脱指導の観察と受講者インタビューから

第二〇三号、一三八～一〇八頁

森 田 孟

複眼による並置比較思考

——ヘンリー・ヴォーン小考（五）——

第二〇三号、一〇二七頁

追求は異なる角度、視点から

——ヘンリー・ヴォーン小考（六）——

第二〇四号、一五〇四二頁

固有名詞の普通名詞化語彙小考

——随想風に、袖珍辞書風に—— 続統

第二〇四号、八二〇五三頁

花と星へ 嵐と夜から苦悶に耐えて

——ヘンリー・ヴォーン小考（七）——

第二〇五号、一三〇四三頁

〈隠された宝〉へ向かって

——ヘンリー・ヴォーン小考（八）——

第二〇六号、一七〇六六頁

【エッセイ】

工 藤 力 男

交通業界の日本語

——言語時評・十八——

第二〇三号、二八〇三六頁

悩ましき〈の〉

——言語時評・十九——

第二〇四号、四三〇五〇頁

一語の時代

——言語時評・廿——

第二〇五号、四四〇五一頁

【研究ノート】

高 木 昌 史

比較民話学とは何か

——その歴史・目的・方法——

第二〇六号、八七～九四頁

【講演】

石 鍋 真 澄

ヴェネツィア、神の手で造られた都市

第二〇六号、六七～八六頁

【報告】

松 田 美作子

エンブレム研究の回顧と展望

——第8回国際エンブレム会議に参加して——

第二〇六号、一〇二～九八頁